

# うっしっしいー情報2019

7月市



豊岡農業改良普及センター

7月10日に行われましたセリ市全体の平均価格は、去勢が97万円、雌が90万9千円でした。

普及センター調べ（税込価格）  
（雄を除くため、JA公表数値とは異なります）

地域	去勢			雌			総計	
	頭数	DG	平均価格	頭数	DG	平均価格	頭数	平均価格
赤佐	11	0.893	919,669	8	0.769	756,540	19	850,983
丹波篠山	7	0.997	1,063,646	5	0.876	956,448	12	1,018,980
丹波	28	0.962	988,779	25	0.810	850,565	53	923,583
朝来	12	0.954	1,018,440	5	0.860	1,044,576	17	1,026,127
播磨	23	0.932	911,614	10	0.801	827,604	33	886,156
美方郡	47	0.938	965,980	35	0.871	987,367	82	975,108
豊岡	14	0.940	970,071	22	0.853	835,724	36	887,970
養父	17	0.956	1,000,525	14	0.841	996,917	31	998,895
摂津・神戸	15	0.966	999,216	12	0.858	948,240	27	976,560
県北C	11	0.914	910,833	3	0.768	822,960	14	892,003
市場全体	185	0.944	969,916	139	0.840	908,964	324	943,767

# 7月市種雄牛ランキング

順位	種雄牛	去勢			雌			総計	
		頭数	平均DG	平均価格	頭数	平均DG	平均価格	頭数	平均価格
1	照和土井	7	0.958	1,004,400	4	0.907	1,003,050	11	1,003,909
2	芳悠土井	32	0.996	1,016,111	19	0.874	976,832	51	1,001,478
3	千代藤土井	13	0.978	1,004,483	11	0.872	907,298	24	959,940
4	丸宮土井	22	0.925	966,993	20	0.818	944,838	42	956,443
	総計	185	0.944	969,916	139	0.840	908,964	324	943,767
5	丸春土井	21	0.958	1,010,417	14	0.829	842,246	35	943,149
6	芳山土井	25	0.937	948,283	17	0.820	910,504	42	932,991
7	照忠土井	22	0.951	968,515	26	0.827	897,355	48	929,970
8	丸池土井	12	0.874	931,320	9	0.831	864,600	21	902,726
9	丸明波	5	0.928	973,512	7	0.840	849,806	12	901,350

価格は税込み (10頭以上の出荷があった種雄牛のみ記載)

## ランキング種雄牛の育種価

	種雄牛	枝肉重量	ロース芯面積	バラの厚さ	皮下脂肪厚	歩留	脂肪交雑
1	照和土井	A++	A++	B	B	A	A+
2	芳悠土井	A	A	B	B	B	A++
3	千代藤土井	A	A+++	D	A → A+	A++	A++
4	丸宮土井	C	B	A+ → A	A++	A+	A++
5	丸春土井	B	B	B	B	B	A++
6	芳山土井	A+	A++	A++	C	A+	A+
7	照忠土井	B	A+++	A	A+	A+++	A+
8	丸池土井	C	A+	C	C → B	A+	A++
9	丸明波	D	A++	D	A → B	A++	A+

北部農業技術センター提供 (育種価評価は平成31年1月現在)

# その子牛、母乳は足りてる？ ～ 哺育期の飼育管理 ② ～

今年度は、「哺育期の飼育管理」についてお伝えしています。子牛においては生後3ヶ月までの発育が、その後の発育に大きく影響を与えます。哺育期にしっかり発育させるため、必要な栄養を確実に与えることが非常に大切です。そして、2ヶ月齢頃までの子牛は栄養のほとんどを母乳に依存しているため、子牛の発育は母乳またはミルクの量で決まってくると言っても過言ではありません。しかし、母牛の泌乳量は、産次数や個体による差が大きく、中には不足する場合も少なくありません。元気な子牛を育成するため、母乳が足りないときの対策に取り組みましょう。

## 1. 母乳の量は足りているか？

最近の但馬家畜市場における販売成績をみると、日齢体重が以前に比べ大きくなり、平均は去勢子牛で0.95kg/日、雌子牛で0.85kg/日以上となっています。しかし、子牛個々での発育差は大きく、中には日齢体重の小さな子牛も少なくありません。

こういった子牛の発育の差を生じさせている要因の一つが、母牛の泌乳量の差であることが試験成績等からも明らかになっています。

乳を吸っているときに盛んに母牛の乳房を突き上げている、母牛が立つ度に待ってましたとばかりに吸い付く子牛の行動は母乳が足りていない証拠です。右上囲いは母乳が少ない場合の母牛や子牛の特徴です。これらに複数当てはまるようなら対策を講じる必要があります。良く母乳を出す母牛の子は、一度の哺乳により満足が得られているので、そう頻繁に吸い付きに行かないものです。「寝る子は育つ」というのは、子牛にも当てはまりそうです。

### 泌乳量がすくない場合の母牛・子牛の特徴

- ① 初産および7産以上経過した母牛である  
(初産の乳量は3産の牛と比べ3割少ない)
- ② 乳房、乳頭が小さく、乳房の張りが不十分
- ③ 子牛の哺乳時間が短く、哺乳回数が多い
- ④ 子牛が吸飲する乳頭を頻繁に変える
- ⑤ 子牛が吸飲する乳房を突き上げる回数が多い



しっかり観察してね♡

## 2. 母乳の必要量は？ (必要な哺乳量は？)

では、実際に子牛が必要とする母乳はどのくらいでしょう？

生後1週間以内に母牛から離し、人工哺乳のみで育てた試験によると代用乳のみ6%で哺乳した子牛の発育は、良く乳を出す母牛の子には及ばないことがわかっています。北部農業技術センターの試験では、但馬牛の平均泌乳量は分娩後4週目で5.9kgですが、初産牛や老齢牛では少なく5.1kg程度でした。尚、良く乳の出る母牛の泌乳量は7～8kg程度と推察されています。

問題なのは、母牛の泌乳量が産次だけでなく、個体差が非常に大きく、見た目だけでの判断が難しいことです。そこで、生まれたときに体重を測定し、一週間後にもう一度、体重を測ります。1週間で増えた体重から、母乳が足りているか目安を示したのが右の表です。

生後1週間での標準増体量は、雄6.3kg、雌5.4kgで、それに目安に、母乳が不足している、または、うまく飲めていないと判断して、追加哺乳を検討しましょう。この頃の子牛はまだ母乳かミルクでしか栄養をとれませんから、この判断は大切です。

表 母乳はどのくらい必要？ 哺乳量の目安は？

表 子牛の生後1週間の増体量から推定した泌乳量(単位:kg)と不足分(推奨される1日当たりの追加哺乳量(単位:%))

増体量 (kg)	雄		雌	
	推定泌乳量	不足分	推定泌乳量	不足分
1	3.4	2.5	2.5	3.0
2	3.8	2.1	3.2	2.3
3	4.3	1.6	3.9	1.6
4	4.8	1.1	4.6	0.9
5	5.2	0.7	5.3	0.2
5.4 (雌標準)	—	—	5.5	0
6	5.7	0.2	6.0	—
6.3 (雄標準)	5.9	0	—	—
7	6.2	—	6.7	—
8	6.6	—	7.4	—

(北部農業技術センター)

## 3. 不足する乳量は代用乳(粉ミルク)で補給

子牛に必要な乳量、また、母牛の泌乳量の目安は解りました。不足分は代用乳(粉ミルク)で補うことで発育を改善しましょう。北部農業技術センターの試験では、追加哺乳を実施した子牛と、実施しなかった子牛とでは、32週(7.5ヶ月)齢での体重差は20kgにもなりました。

しかし、実際に行くと、哺乳瓶から代用乳をなかなか飲まない場合もあり、早い時期から哺乳瓶に馴らすことが大事です。子牛が哺乳瓶から飲まない場合は、母乳を吸っているときに哺乳瓶を割り込ませてみる、子牛を母牛からしばらく離してから与えてみるなど工夫しましょう。実際は、1週間経ってから追加哺乳をはじめるとは難しいので、はじめからある程度の追加哺乳を行っている農家もあります。

与える量を一律に決めてしまっている場合がありますが、実際はそれでは足りない場合もあるので、量や回数を増やすなど工夫しましょう。

## 4. 追加哺乳で気をつけること

前回もお伝えしましたが、代用乳にばかり頼って大きくすると、一見体重は増加していても、反芻胃の発達していない子牛になりかねません。こうした子牛は、離乳したあとに飼料を十分に消化できないため発育が停滞してしまいます。哺育期の初期には、まず、母乳が不足していないか見逃さないことが大切ですが、育成期に発育をつなげて行くには、哺育期の後期においてスターターをしっかりと給与することが大切です。哺育期にはこれらをあわせて見ていきましょう(「子牛の胃の機能とスターターの給与」については、5月号 哺育期の飼育管理 ① をご覧ください)。

### 体重差法による泌乳量の推定と代用乳の給与量

- ① ヘルスメーター等で出生時体重および1週齢の体重を測定する。
  - ② 1週間の増体量から母牛の泌乳量を推定する(表:推定泌乳量)。
  - ③ 表から不足量を推定し、代用乳を給与する(表:不足分)。
- ※ ② ③は、雌雄で異なるため注意する

代用乳の給与を続ける期間は、発育状況や、スターターを摂取する量によって加減します。生後1～2ヶ月程度までは行いましょう。



子牛は抱っこして体重測定♪

### Point

- 母乳の量が足りているかどうか、母牛と子牛をよく観察しましょう!
- 生後1週間での標準増体量は、雄6.3kg、雌5.4kgです。それに足りない場合は追加哺乳を行いましょう!
- 哺育期の後期では、追加哺乳だけでなく、スターターをしっかりと給与しましょう!